

大原の里と比良の山

大原のオオムラサキを守る会
蓬 萊 む し の 会
第14号 2025.5.10

医王山訪問

塩尻 哲

春も進み、朝は寒さが残るが日中は汗ばむような日が続く中、4月19日、ギフチョウとの出会いを楽しみに石川県医王山にむけて出発しました。去年は越智山に行きましたが空振りに終わりました。今年こそ意気込みで！ 同行は、小松氏。氏も医王山は初めての山行で、この気温と時期では下見程度ではと話していました。

医王山は「いおうぜん」と読み、石川県金沢市と富山県南砺市にまたがる標高939mの山塊です。2つの登山ルートを持ち、富山側からも登頂できるが石川側から山に入りました。

金沢東インターを降り、市街地を進み、広大な敷地の金沢大学の構内を通り進んでいくと水を満たした田んぼや畑のんびりとした里山の風景が広がる。左手のスポーツセンターの桜並木は満開を過ぎ花びらが道を埋めていました。やがて、右にビジターセンター、キャンプ場、さらにスキー場。そこには山菜摘みの人が、ポカポカ陽気の中、いかにものんびりです(図1)。

林道田島2号線に入り少し行ったところを左に折れたところに車を止め、ギフチョウ探しを始めました(図2)。ちょっと動くと汗ばむような気温と、時期を考えるとギフを拝むのは難しいかもと予想していたのですが、車を止めてすぐ、道を下ったところから小松さんか「飛んでる！」の一声、医王山での初見参です。

期待が持てます。今年こそ期待が広がります。準備をして、道を下り始めた私のすぐ後ろに、という声に振り向きましたが見失いました。

それ以来姿を見ることがなく時間が過ぎていました。そのうちに道から外れたところを飛ぶギフを見ることができましたが、手の届くところまでは来てくれません。道の途中の桜の木の下にいた小松さんの「サクラに来てる」の声で戻ってみると一頭目を採集されていました(図3)。尾状突起が片方ありませんでしたがなかなかきれいなオスの個体です。

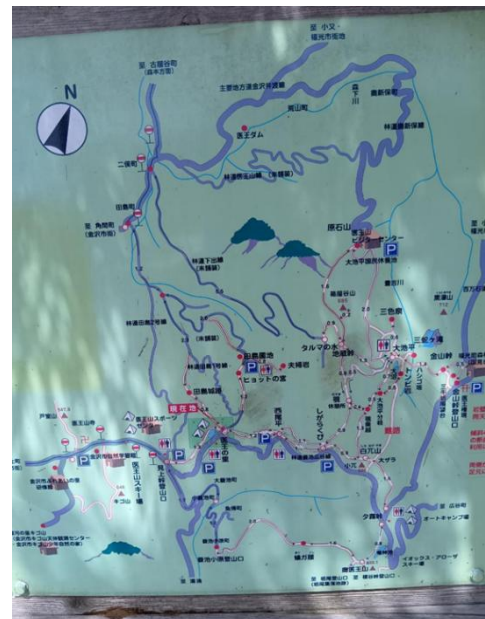


図1 医王山の地図



図2 林道田島2号線の様子 左がサクラ



図3 1頭目のギフチョウ



図4 雪の林道

どうやらサクラの花に吸蜜に来ているようです。サクラの木で粘ることにしました。小松さんは別の場所の探査に行かれたようで姿が見えませんでした。その間に吸蜜にやってくる個体が2頭3頭と見られました。残念ながらいずれも手の届かぬところで吸蜜をして飛び去って行きました。そのうち一頭が下の枝に降りてきました。網を振りぬき最初の一頭を手に入れました。

生息を確認したので、次の場所夕霧峠へ向いました。しかし、医王の里からは道に雪が見られました(図4)。それから50mほど進むと倒木が道ふさいでいました。通行不能で、医王の里に車を止め徒歩で進みましたがどんどん雪が深くなり1.5kmぐらい進んだところで夕霧峠は諦め戻ることになりました。

戻る途中、この林道の雪の上をギフが飛んできました。道を横切ってくる個体があるようです。この雪の中でもしっかりとギフチョウが生息していました。ギフは白く輝く雪の上を横切ってきて結構見極めにくいものですが、小松さんはいくつも見つけて採集されます。私もおこぼれをいただきましたが、あまり擦れもないメスでした。

崖の上にサクラの木が4本並んでいる所で昼食をとりながら張っていると、ギフが沢から道を横切ってサクラにやってきます(図5)。迂回して崖に上る間に何頭か逃がしましたが、崖の上にいれば採ることができそうでした。私も1オスを獲得しました。

ここでも生息を確認出来ましたし、夕霧峠の可能性も大きいことを期待して竿を納めました。

今回は、初めての医王山でした。ギフチョウの生息も確認できたので下見の目的も達成出来たと思います。シカの被害もさほど大きくないような気がしましたので、来年の医王山行きが楽しみとなりました。



図5 崖の上のサクラ

チョウから見たびわ湖バレイスキー場の環境

大友 正生

びわ湖バレイスキー場や比良山スキー場は 50 年ほど前から通ってきたフィールドである。ゼフィルス類・ヒョウモン類・アサギマダラなど平地では見ることが少ないチョウたちと出会え、テンションが高くなる場所である。2024 年に行った蓬莱むしの会によるルートセンサス¹⁾の結果から、3 通りの評価法を用いてびわ湖バレイスキー場の環境について考えた。

1. 個体数 10 位までの種²⁾

ルートセンサスで発見できた上位 10 種までをあげると、表 1 のようになった。

この結果からは、森林・林縁性 (G) が 3 種、草原性 (F) が 6 種、人工的な環境にすみ移動性の高い種 (※) が 2 種となり、スキー場のゲレンデという環境が草原性を高くしていると思われる。

2. 巢瀬の環境指数を用いて³⁾

巢瀬氏はすべての種に 1~3 の数値を割り振った。数値が大きいほど自然度の高い環境にすむ種である。これをルートセンサスで発見した種に割り振ると表 2 のようになった。

その数値の合計は 73 であった。これを巢瀬の環境評価表 (表 3) から判断すると、びわ湖バレイスキー場の環境は「中自然で農村・人里の環境」となり、期待していた「良好な林や草原」とはならなかった。

3. 田中の環境階級存在比 (ER) を用いて⁴⁾

田中氏は種類だけでなく個体数も加味した ER 値というもので、環境を評価することを考えた。算出の過程を表 4 に示した。それに基づく ER 値の算出結果を表 5 に示した。これによるとびわ湖バレイスキー場の環境は原始段階 (非定住非利用) の要素が 36%、二次段階 (非定住利用) の要素が 27%、三次段階 (農村・人里) の要素が 29%、四次段階 (都市・工業社会) の要素が 8% となった。つまりびわ湖バレイスキー場は原始段階 (非定住非利用) の要素が最も多く、手付かずの環境が残っていると言える。また、二次段階 (非定住利用) や三次段階 (農村・人里) の要素も少ないとは言えない。

4. まとめ

以上の 3 つの異なった評価方法でびわ湖バレイスキー場の環境を評価したが、1 と 2 の結果はびわ湖バレイの複雑な環境の一部を示したに過ぎないのであろう。1965 年に比良山系南部の原始的な森林にスキー場という人工的な施設が出現したことによって、びわ湖バレイ周辺の環境は複雑多様になっているのは当然であると考えられ、それを適切に表しているのが 3 (田中の環境階級存在比) であると言える。3 の結果から見て幸いに思うのは、原始段階 (非定住非利用) の要素が最も大きいということである。現在、シカの食害による植物相の貧弱化、林床の乾燥化、草原化が進んでいると思われる中で、2023 年から始めたルートセンサスを継続することによって、これからの変化を見守っていきたい。

参考文献

- 1) 藤野適宏・大友正生・的場亮一・小松清弘・塩尻 哲：2023 びわ湖バレイ ルートセンサス報告。大原の里と比良の山 (2)。
- 2) 宮武頼夫：2023. 奈良県橿原市南山のチョウ相。橿原市昆虫館報告, 2-1, 1-9。
- 3) 巢瀬司：1993. 蝶類群集の一方法。日本鱗翅学会編。日本産蝶類の衰亡と保護。2, 83-90。
- 4) 田中蕃：1988. 蝶による環境評価の一方法。「蝶類学の最近の進歩」。日本鱗翅学会特別報告。6, 527-566。

表1 個体数10位までの種

順位	種 名	生息環境	個体数
1位	モンシロチョウ	※	238
2位	ウラギンヒョウモン類(サト・ヤマ)	G	183
3位	ツマグロヒョウモン	※	132
4位	オオチャバネセセリ	G	65
5位	イチモンジセセリ	G	43
6位	モンキチョウ	G	35
7位	ミドリヒョウモン	F	20
8位	チャバネセセリ	G	18
9位	アカタテハ	G	15
10位	ヒメキマダラセセリ	F	13
10位	キタキチョウ	F	13

F：森林・林縁性、G：草原性、※：人工的な環境でも住める種

表2 巣瀬の環境指数

科 名	種 名	巣瀬の指数
アゲハチョウ	ウスバシロチョウ	2
	アオスジアゲハ	1
	キアゲハ	2
	ミヤマカラスアゲハ	3
シロチョウ	モンシロチョウ	1
	スジグロシロチョウ	2
	キタキチョウ	2
	モンキチョウ	2
シジミチョウ	ウラギンシジミ	2
	ムラサキシジミ	2
	オオミドリシジミ	2
	エゾミドリシジミ	3
	メスアカミドリシジミ	3
	トラフシジミ	2
	ベニシジミ	1
	ウラナミシジミ	1
	ヤマトシジミ	1
	ツバメシジミ	2
タテハチョウ	テングチョウ	2
	アサギマダラ	3
	ルリタテハ	2
	キタテハ	2
	アカタテハ	2
	ヒメアカタテハ	2
	ミドリヒョウモン	2
	オオウラギンスジヒョウモン	2
	ウラギンヒョウモン	3
	ツマグロヒョウモン	1
セセリチョウ	ジャノメチョウ	2
	クロヒカゲ	3
	クロコノマチョウ	3
	ヒメキマダラセセリ	2
	チャバネセセリ	2
	コチャバネセセリ	3
ウ	オオチャバネセセリ	2
	イチモンジセセリ	1
計		73

表3 巣瀬の環境評価表

環境指数	環境のランク	具体的環境
0～9	貧自然	都市中央部
10～39	寡自然	住宅地・公園緑地
40～99	中自然	農村・人里
100～149	多自然	良好な林や草原
150～	富自然	極めて良好な林や草原

(巣瀬、1998)

表4 環境階級存在比(ER)算出の過程

種 名	補正值合計						指標値				
	生息分布度						指標値				
	T	α	β	Γ	δ	I	T	αT	βT	ΓT	δT
ウスバシロチョウ	7.5	3	5	2		2	15	45	75	30	0
アオスジアゲハ	0.5	3	3	3	1	1	0.5	1.5	1.5	1.5	0.5
キアゲハ	1.7	3	3	3	1	1	1.7	5.1	5.1	5.1	1.7
ミヤマカラスアゲハ	1.1	5	3	2		2	2.2	11	6.6	4.4	0
モンシロチョウ	149.2	1	1	6	2	2	298.4	298.4	298.4	1790.4	596.8
スジグロシロチョウ	3	3	3	3	1	1	3	9	9	9	3
キタキチョウ	7.7	1	4	3	2	1	7.7	7.7	30.8	23.1	15.4
モンキチョウ	21.8	3	3	3	1	1	21.8	65.4	65.4	65.4	21.8
ウラギンシジミ	0.6	2	6	2		2	1.2	2.4	7.2	2.4	0
ムラサキシジミ	3.8	5	3	2		2	7.6	38	22.8	15.2	0
オオミドリシジミ	1.5	4	4	2		2	3	12	12	6	0
エゾミドリシジミ	1.5	7	3			3	4.5	31.5	13.5	0	0
メスアカミドリシジミ	0.5	8	2			4	2	16	4	0	0
トラフシジミ	1.7	2	6	2		3	5.1	10.2	30.6	10.2	0
ベニシジミ	4.6	3	2	3	2	1	4.6	13.8	9.2	13.8	9.2
ウラナミシジミ	4.3		2	5	3	1	4.3	0	8.6	21.5	12.9
ヤマトシジミ	5.1	2	2	4	2	1	5.1	10.2	10.2	20.4	10.2
ツバメシジミ	0.6	3	3	2	2	1	0.6	1.8	1.8	1.2	1.2
テングチョウ	2.1	5	3	2		2	4.2	21	12.6	8.4	0
アサギマダラ	1.2	6	3	1		2	2.4	14.4	7.2	2.4	0
ルリタテハ	0.6	2	4	4		1	0.6	1.2	2.4	2.4	0
キタテハ	1.3	2	3	3	2	1	1.3	2.6	3.9	3.9	2.6
アカタテハ	8.9	1	4	4	1	1	8.9	8.9	35.6	35.6	8.9
ヒメアカタテハ	1.8	3	3	3	1	1	1.8	5.4	5.4	5.4	1.8
ミドリヒョウモン	11.3	1	9			4	45.2	45.2	406.8	0	0
オオウラギンスジヒョウモン	1.8	2	8			4	7.2	14.4	57.6	0	0
ウラギンヒョウモン	101.5	7	2	1		3	304.5	2131.5	609	304.5	0
ツマグロヒョウモン	77.6	3	3	3	1	1	77.6	232.8	232.8	232.8	77.6
ジャノメチョウ	0.6	4	4	2		2	1.2	4.8	4.8	2.4	0
クロヒカゲ	0.6	6	4			3	1.8	10.8	7.2	0	0
クロコノマチョウ	0.6	6	3	1		3	1.8	10.8	5.4	1.8	0
ヒメキマダラセセリ	7.2	3	5	2		2	14.4	43.2	72	28.8	0
チャバネセセリ	11	3	2	3	2	1	11	33	22	33	22
コチャバネセセリ	13.2	2	6	2		3	39.6	79.2	237.6	79.2	0
オオチャバネセセリ	39.2	4	4	2		2	78.4	313.6	313.6	156.8	0
イチモンジセセリ	16.8	2	3	3	2	1	16.8	33.6	50.4	50.4	33.6
合計	514						1007	3585.4	2698	2967.4	819.2
ER値		3.6	2.7	2.9	0.8						
		ps	as	rs	us						

・補正值合計T…各調査における所要時間は長短があるので、それをすべて150分間調査した値に換算した。Tはその換算値の合計

・生息分布度…α：primitive stage(ps一次段階、原始段階)、B：afforested stage(as二次段階、非定住利用段階、)、Γ：rural stage(rs三次段階、農村段階、)、δ：urban stage(四次段階、都市段階、)

・指標値I…各種の環境指標性、1～5、数値が大きいくほど指標性大

・ER値…環境階級存在比(4つの段階のうちどの段階に属する種が多いか)

たとえば、原始段階(ps)のERIは、

$$ER_{(ps)} = \frac{\sum_{i=1}^n \alpha_i \cdot T_i \cdot I_i}{\sum T_i \cdot I_i}$$

表5 ER算出結果

ER値	3.6	2.7	2.9	0.8
階級	ps	as	rs	us
人工化	原始段階	二次段階	三次段階	四次段階
の段階	非定住非利用	非定住利用	農村・人里	都市・工業社会
	極相林	植栽林	伐採跡地	公園緑地
森林的	天然更新林	薪炭林	採草地	住宅地
環境		疎林・林縁	耕作地	工場
				ビル街
	森林スツテブ	放牧地	牧草地	公園緑地
草原的	低木原	採草地	耕作地	住宅地
環境	荒原			工場
				ビル街

活動 20 周年記念展示を終えて

藤野 適宏

2025 年 3 月 15 日に開催したオオムラサキを守る会の活動 20 周年記念展示「昆虫からみた大原の自然」は、2025 年 4 月 13 日に無事終了することができた。その展示物の項目を図 1 に示す。このうち「Ⅰ 大原のオオムラサキと保護活動」は 2022 年度開催の展示を改訂したもの、「Ⅱ 大原のアサギマダラとフジバカマ」は 2023 年度開催の展示を改訂したものであり、「Ⅲ 大原の昆虫」は今回、新たに構想したものである。

図 2 に今回のために作成した案内用チラシ（的場亮一氏作成）を示す。これを A4 サイズにして 200 枚印刷し、学校や大原文化センターなどで配布した。この案内チラシをもとに案内はがきを 150 枚印刷して、2023 年度展示の芳名録記入者や会員各自の知人等に送付した。また、案内チラシを A3 サイズに拡大して、人の目につきやすい大原各所に掲示していただいた。アサギマダラのメーリングリストにも案内を出した。

これらの案内の工夫が奏功して、期間中推定 160 名の来訪者があった。会員は回り持ちで来訪者に対応した。また、来訪者にはアンケートへの回答と芳名録への記入をお願いした。芳名録は 141 名に記入いただいた。お住まいの記入によると大原から 44 名、大原以外の京都府内から 69 名、他府県から 28 名で、広い地域から来ていただいたことがわかった。アンケートへの回答は 117 名であった。現在集計中で、どのような分析結果になるのかが楽しみである。

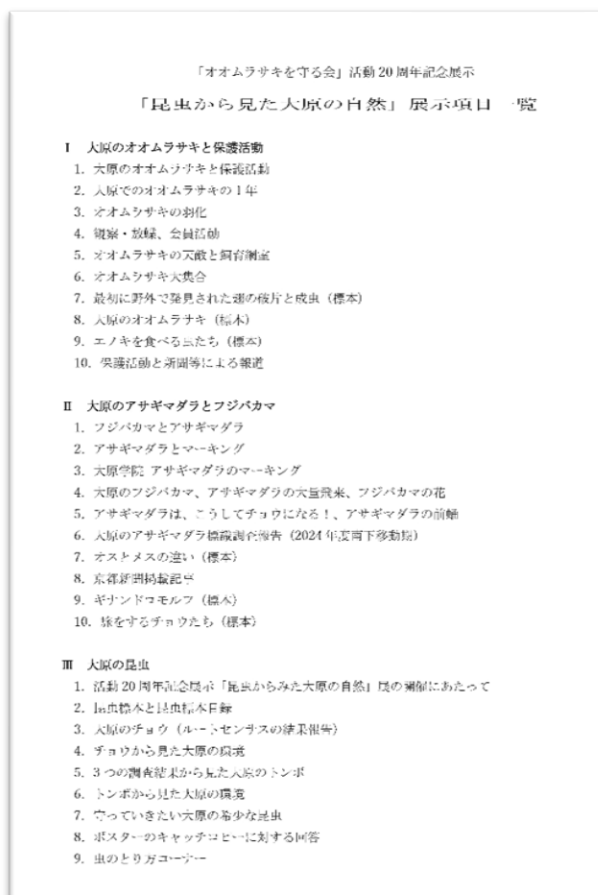


図 1 展示項目



図 2 案内チラシ

- 1) 山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明：近畿のトンボ、いかだ社、2009
- 2) 東川航・森照貴：トンボ類を指標とした流域環境の評価に関する試み、土木技術資料 65-4、18-21, 2023
- 3) 大原のオオムラサキを守る会：3つの調査結果から見た大原のトンボ(1)、大原の里と比良の山 10、3-7, 2025

<4月おもな活動の報告>

◆4月9日(水) 10:00～ (報告者：小松)

○参加者 藤野、木村、塩尻、的場、村上、小松、計6名

○活動内容

- ・連絡 (1) 本日の活動内容
(2) セブンイレブン助成金
 - ①銀行振込口座の開設 ②助成金の支出について一物品購入は先ずコメリで(物置などについて交渉—複数人で行く)
- (3) 物置設置について—上田さんを通して地主に承諾を得る(敷地の売却の予定がありその際の撤収を求められる。)
- (4) 文化センター；金庫跡の整備進行中
- (5) 地元の西村さんについての情報
- ・作業 (1) ルートセンサス
(2) 網室の防草シート張り 西側はシート不足のため仮張り

◆4月13日(日) 16:00～

○参加者 小松、的場、村上、木村、奥谷、大友、藤野、計7名

○活動内容：記念展示終了後の片づけ

◆4月16日(水) 10:00～、13:30～ (報告者：奥谷)

○参加者 小松、藤野、木村、塩尻、的場、大友、村上、奥谷、計8名

○活動内容

10:00～ 網室

- ・会議 (1) 本日の活動内容 (2) 総会について
- ・作業 (1) 幼虫管理 (2) 網室内、網室外フジバカマ園の除草

11:30～(昼食を挟む) 大原BC

・オオムラサキの会総会 *詳しくは別紙参照

- ① 2024年度活動報告 ②2024年度会計報告 ③会則、名簿 ④役員の承認 ⑤2025年度活動計画 ⑥定例活動日の設定 ⑦2025年度の予算の執行 ⑧視察・旅行 ⑨その他の特記事項

*熱心な討議がなされ、いくつか課題が残ったが今後継続して検討することで承認された。

15:00～

- ・パーテーションを学校へ返却作業

◆4月23日(水) 10:00～、13:00～ (報告者：奥谷)

○参加者 小松、藤野、木村、塩尻、大友、奥谷、計6名

活動内容

(午前) 10:00～ 網室

- ・会議 (1) 本日の活動内容 (2) 春の和の花展の案内 (3) フジバカマ殺菌剤の紹介
(4) 会計報告、会計監査報告 (5) セブンイレブン助成金の支出について；コメリ発注

は役員で、アマゾン発注は藤野で

(6) 放蝶会 6月21日(土)学校で実施;一般個人参加可(こちらで把握し学校に連絡)

(7) 里トラ代表山下さんから久保さんに変更

・作業 (1) 幼虫管理、幼虫の頭殻集め (2) 網室外エノキの袋の下を閉める

(午後) 13:00~ 大原BC

・作業 BVの標本の返却準備

◆4月24日(木) 10:00~ (報告者:小松)

○参加者 小松、藤野、計2名

○活動内容 大原ルートセンサス

◆4月29日(火) 9:30~ (報告者:大友)

○参加者 藤野、小松、的場、村上、大友 計5名

○活動内容 びわ湖バレイルートセンサス

【あとがき】

3月下旬に網室内エノキが芽吹き、越冬幼虫が動き出した。両者が同期しないことが意外と多く心を痛める年が多い中で、今年は順調である。4月23日に起眠後1回目の脱皮の初見があり、5月7日には2回目(終齢)の初見があった。これから目が離せない日々が続く。徐々に羽化が早期化してきて、今年の放蝶会を6月21日と昨年よりも約1週間早めたが、蛹化・羽化が順調に進むことを心より願う。

フジバカマの連作障害はきびしいものがある。とりわけ網室横のコバノフジバカマは深刻だ。除草に時間が取れないのも問題に拍車をかけている。比較的白絹病に強い原種フジバカマに置き換えるのも一案だが、アサギマダラの飛来に開花を合わせるのが難しい。それにアサギマダラはコバノフジバカマの方を好むと思えるのも決断を難しくしている。10月の大量飛来を夢見て世話を続けていきたい。

(藤野)

= 目 次 =

医王山訪問	1
チョウから見たびわ湖バレイスキー場の環境	3
活動20周年記念展示を終えて	5
トンボから見た大原の環境	6
4月おもな活動の報告	7
あとがき・目次	8

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会

2025年5月10日

第14号

大原のオオムラサキを守る会 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町54 小松清弘

蓬莱むしの会 〒520-0105 大津市下坂本1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西川原21-151 藤野適宏